



小倉南区

地域の歴史と親子の笑顔を育む

- 城野市民センター
- 吉田市民センター

市民センターにおける生涯学習事業

区	小倉南区	センター名	城野市民センター
---	------	-------	----------

事業・活動名

生涯学習市民講座：「遺跡から学ぶ城野の歴史～ここにも邪馬台国の豪族が住んでいた～」

事業・活動の背景とねらい・目的

城野遺跡は、調査による弥生時代後期の集落跡や墓地が大規模な発見から、遺跡の重要さが評価され福岡県の史跡に指定された。市民への城野遺跡の周知と、貴重な文化財の活用を図るために、城野遺跡公園として整備された。しかし、地域住民に十分周知されておらず、公園としても活用されることがほとんどない。城野遺跡について地域住民の学ぶ機会として市民講座を開催し、知識を得ることをきっかけに住民の遺跡への関心を高め近隣の遺跡を含め、校区全体の歴史的価値に気づくことにより、校区への関心を高める。また、公園を活用した活動などをきっかけに、地域活動に参加する住民を増やす。

取組内容

今年度は、城野遺跡を主として地域に存在する重留遺跡、重住遺跡を加えた3つの遺跡について学んだ。講師は埋蔵文化財担当原田智也課長に講師をお願いし、3回シリーズの講座として実施した。

- ① 主に城野遺跡について学ぶ
- ② 重留遺跡、重住遺跡について学ぶ
- ③ 実際に遺跡を巡りながら遺跡の解説を聞く

座学で学んだ後に、実際に歩いて3か所の遺跡を講師の解説を聞きながら回ることで、理解を深めるとともに、身近に感じてもらう。

成果・効果

遺跡から当時の様子を知ることができ、遺跡の高い価値について理解が深まることで、シビックプライドを醸成することができた。

講座の参加者から、さらに学びを続けたいと要望があり、連続講座とすることができた。遺跡について学んだうえで、遺跡跡を回りながら解説を聞いたことで、自分の住む地域が古代から人が住み、営みがそこにあったことを実感することで、より地域への愛着がわいた。また、地域の事についてもっと知ろうという意欲が高まり、地域活動など自分の住む地域への関心が高まった。

今後の取組

遺跡についての知識をさらに深めたいという要望があり、今後も継続して学ぶ機会をつくることで、住民の持続的な学びにつなげ、他の講座への関心を高めることにつなげる。遺跡について学ぶだけでなく、公園を活用した健康づくりなどの事業に取り組む。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

歴史的に価値があるものが、どの地域にも存在するが、地域住民がその価値に気が付いていないことが多い。地域の価値あるものに目を向け、学びの場を作るとは、住民の学習意欲の高揚につながり、地域への愛着を深めることで、より地域を身近に感じ地域お活動への関心を高めるきっかけづくりにつながる。

活動の様子



重留遺跡から出土した広型銅矛
(弥生時代後期) 国重要文化財



史跡（遺跡）とはから、遺跡から紐解かれる当時の人の暮らしや歴史について、詳しい解説を聞きました。



重富遺跡・重住遺跡・城野遺跡を開設を聞きながら巡りました。

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

校区に城野遺跡公園があるが地域住民の関心が薄くあまり知られていないことがわかり、地域づくりのきっかけとして、まず、講座を開催してみてもどうかと提案した。また、講師など行ついで、埋蔵文化センターに相談することを勧めた。今後の提案として、講演を活用したイベントなどいくつかの事例を紹介した。

作成者

小倉南区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 前田 純恵

市民センターにおける生涯学習事業

区	小倉南区	センター名	吉田市民センター
---	------	-------	----------

事業・活動名

0歳からのこどもまんなかコンサート

事業・活動の背景とねらい・目的

吉田校区には子育て世代が多くいるが、地域コミュニティの希薄化が進み保護者同士の交流の機会が減少している。

子育て中の親子が孤立しないよう安心して過ごせる居場所づくりが必要とされている。市民センターで親子参加型にすることで安心して楽しむことができ、保護者同士が繋がるきっかけとなり、子育て中の保護者に癒しの時間を提供する。また、親子で体験する楽しさを共有することで家族の繋がりも深める。

取組内容

子育てサポーターが司会を務め、ピアノコンサートではクラシックからアニメまで様々な曲を演奏、絵本の読み聞かせでは子育てサポーターが大型絵本「おべんとうばす」をピアノの伴奏つきで読み、合間に講師の講話を挟みながら歌ったり、体を動かしたり、参加型で進行。

講師の講演は、自身の子育て経験から保護者を励ます内容だった。

また、高齢者デイサービス「ふらっとハウス」の利用者が作成した巨大フォトスポットで撮影会も行われた。

成果・効果

ピアノコンサートでは大人も子どもも満足して飽きさせない工夫が沢山あった。

演奏の中で、オーガジーの布遊びや、キラキラスティックを振って乳幼児も体験できる参加型にすることで受講者同士の一体感が生まれた。

子育てサポーターが「泣いてもOK!」「好きに動いていいよ」と声かけしたことで保護者の気持ちを軽くし、子ども達も自由に音楽を楽しむことができた。

講師も吉田校区在住で、子育て中であることから自身の経験を交えて子育てについて話していた為、励まされた保護者もいたのではないかとと思われる。

ピアノの音色と、講師の講話で保護者もリラックスし前向きに子育てを捉えるきっかけとなった。

また、フォトスポットを作成した施設の方も参加しており、高齢者と親子が交流する場面も見られ、多世代交流が自然とおこなわれていた。

様々な体験を通して子どもの豊かな感性を育む機会となった

今後の取組

子育てサポーターhagohagと市民センターが協働し、吉田校区の子育て支援と子どもの豊かな感性を育むきっかけづくりをおこなう。

親子が安心して過ごすことができる居場所づくりにも繋げる。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

市民センターと子育てサポーターが協働することで、参加しやすく、自然な交流の場づくりができる。また、様々な団体と市民センターが連携し、それぞれの個性を活かした子育て支援の拠点（居場所）が一つの校区に複数作ることができれば、自分に合った場所が見つけられ、親の孤立を防ぎ子どもの経験や交流が広がる可能性がある。

活動の様子



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

以前から活動していた校区の子育て団体と新たな団体が上手く役割り分担し、校区に複数の子育て支援の場が出来るよう、市民センターと子育てサポーターの話し合いに参加し実現に向けて支援した。

作成者

地域人づくりアドバイザー担当補佐 岩元 綾